

平成25年第2回市議会定例会が開催されるに当たり、市政に対する所信の一端を申し述べますとともに、市政の諸課題をはじめ提案いたしました議案について、その概要を御説明申し上げます。

まず、この度、本市市議会議員として10年以上の長きにわたり活躍しておられる原幸雄議員、美尾谷幸雄議員、籠一郎議員、有馬茂人議員が、全国市議会議長会及び北信越市議会議長会から栄えある表彰を受けられました。市民を代表して心から敬意を表し、お祝いを申し上げます。

ところで、先月22日に、公益社団法人日本港湾協会の定時総会が本市で開催され、全国から約900名もの関係者が一堂に会し、港の振興と我が国の国際交流の進展、経済基盤の強化について話し合われました。この機会を捉え、私も、日本の元気再生には、港の活性化が必要不可欠であり、港湾の振興に断固たる決意で取り組みましようとお断言申し上げるとともに、敦賀港をはじめとする本市の魅力ある地域資源を広くPRさせていただいたところであります。ここに改めて関係各位の御尽力と御協力に対し、感謝申し上げます次第であります。

さて、今春の選抜高等学校野球大会において、敦賀気比高等学校が並み居る強豪校を撃破し、選抜大会としては敦賀勢初のベスト4入りを果たし、

高校球史に大きな足跡を残すこととなりました。この快挙は、全国に敦賀の「元気と気概」を大いにアピールするとともに、北信越地区代表として多くの方々に夢と感動を与えてくれました。ここに、その健闘を心より称えるものであります。夏の全国高校野球選手権大会を間近に控え、全国制覇を目指し、更に精進されることを強く期待するところであります。

次に、当面する市政の重要課題について申し上げます。

まず、原子力行政についてであります。

敦賀発電所敷地内の破砕帯につきましては、原子力規制委員会の有識者会合において、「現在までに得られたデータ等をもとに、2号炉原子炉建屋直下を通るD-1破砕帯は、耐震設計上考慮する活断層と判断できる」とする評価書がとりまとめられ、先月22日の原子力規制委員会です承されました。

破砕帯の評価については、慎重な審議を求めてまいりましたが、事業者に対して要求した調査の報告を待たず、十分なデータが得られていない段階で結論を示した有識者会合や原子力規制委員会の姿勢には疑念を抱かざるを得ません。また、評価に携わった有識者自らが指摘するように、調査データの不足や有識者の専門分野の偏りなど、評価会合のあり方、進め方

などにも大いに問題があったと感じております。この点については、今月6日と7日に行われた議員説明会及び原子力発電所懇談会での原子力規制庁からの説明に対し、議員や委員から判断に至るプロセスに重大な問題があり、納得できないとする意見が相次いだことから、多くの市民が同様の疑問を抱いているのではないかと存じます。

原子力規制委員会としては、今後、新たな知見が得られた場合には評価を見直すこともあり得るとしてしておりますが、「国内外の多様な意見に耳を傾け、孤立と独善を戒める」という自らの活動原則に従い、より幅広い分野の専門的知見を反映し、科学的、技術的根拠に基づいた議論を尽くしたうえで、国民の理解と納得が得られる判断が行われることを強く望むところであります。

一方、もんじゅにおける約1万件にも及ぶ機器の点検不備につきましては、自らが定めたルールを守らなかったという極めて深刻な事案であり、昨年11月に不備が判明した直後に、本市としても厳重に注意を行いました。が、原子力規制委員会において、「現在の原子力機構には、もんじゅの安全確保を十分行い得る体制が整っていない」との判断がなされ、使用前検査を進めるための活動を行わないことなどの命令が出される結果となりま

した。原子力機構においては、先日就任された松浦新理事長のもと、原子力を扱う者としての高い安全文化の確立を目指し、組織の抜本的改革に全力で取り組んでいただかなければなりません。

また、文部科学省に対しては、先月17日に丹羽政務官と面談した際に、監督官庁としての責任を十分認識し、安全管理の徹底など、原子力機構に対する指導を厳格に行うとともに、文部科学省自らの指導体制の強化についても強く要請したところであります。

もんじゅの研究開発は、ウランの有効活用や放射性廃棄物の減容化などを図るうえで、国家プロジェクトとしての重要な使命を帯びており、国際的にも注目されております。その重要性を今一度再認識し、常に安心安全を第一に着実に取り組むよう、文部科学省、原子力機構に対して今後も強く求めてまいります。

防災対策について申し上げます。

本市の防災対策の基本となる地域防災計画については、地域防災計画改定作業部会において、各関係機関からの意見をいただき、今月7日に敦賀市防災会議を開催し、改定いたしました。今回の改定では、従来、地震災害対策編に含まれていた津波災害対策に関する部分を抜き出し、新たに津

波災害対策編を設けることにより、内容の充実を図りました。また、原子力災害対策編については、東日本大震災に伴う原子力災害を踏まえ、防護対策の区域を市内全域に広げるなど、内容を大幅に見直しました。なお、原子力災害対策編については、国の原子力災害対策指針等の改定が今後も予想されることから、必要に応じ見直しを進め、実効性の高い計画を目指してまいります。

ところで、福井県原子力防災総合訓練が、今年16日に美浜町を中心として実施されます。今回の訓練は、福井県が昨年度末に策定した「原子力発電所近接5キロメートル圏内の住民避難計画」の検証が目的の一つであり、非常に重要な訓練と考えております。本市としても積極的に訓練に参加し、国、県及び各防災関係機関と調整を図りながら、訓練の結果をもとに問題点の洗い出し等を行い、今後の原子力防災対策に活かしてまいります。

一般防災対策については、先月30日に、初めて豪雨災害を想定した職員非常参集訓練を夜間に実施いたしました。訓練では、救援物資の輸送や要援護者に対する対応の確認を行い、万一災害が発生した場合にも、冷静に対応できるよう職員の防災意識の向上を図りました。

今後とも、災害に強いまちづくりを目指して、関係機関と一体となった

防災体制の強化に取り組むとともに、職員をはじめ、市民一人ひとりの災害に対する知識や意識を強化し、地域全体の災害適応力の向上に努めてまいります。

次に、商業の活性化について申し上げます。

原子力発電所の長期停止に伴い、地域経済の低迷による経営環境の悪化が徐々に顕在化しております。特に、飲食、宿泊業が大きな影響を受けており、その対策が急務となっております。

そこで、今回、飲食、宿泊業の経営者が自ら企画した顧客獲得事業を支援することといたしました。経営者が集客に繋がる事業案を自ら考え実施することにより、自己啓発の促進や経営企画力の向上にも寄与すると考えております。

また、東京ディズニーリゾート開園30周年記念として、9月1日の敦賀まつりカーニバル大行進に、ミッキーマウス等の人気キャラクターによるディズニーパレードも参加することが決定いたしました。当日は、市内外から大変多くの来場者が訪れ、例年以上の賑わいが予測されることから、嶺南5市町と連携し、商工会議所や市民団体の協力を得て、物産展の開催や鉄道と港のまち敦賀の観光PRを積極的に展開してまいりたいと考えて

おります。また、カーニバル当日の安全面についても、警備の増員を図るなど、万全の対策を講じてまいりたいと存じます。

次に、交通網の整備について申し上げます。

北陸新幹線につきましては、新北陸トンネルや深山トンネル工事に必要な自然環境調査を実施するための現地踏査を、鉄道運輸機構が今月から行う予定と聞いております。この一連の調査等に約2箇年を要するとのことであり、経過を注視してまいりたいと存じます。

また、先月30日には北陸新幹線敦賀開業促進期成同盟会の総会が開催され、北陸新幹線の日も早い敦賀までの開業と地方公共団体の負担軽減等を国及び関係機関に対し強く要望する決議がなされたところでございます。

一方、敦賀以西ルートにつきましては、昭和48年に閣議決定された若狭ルートを基本として、国が早期に方針を示すべきと考えており、来たる6月23日には、小浜市において嶺南地域一丸となった決起集会が開催される予定となっております。

敦賀駅交流施設について申し上げます。

JR西日本において工期延長の原因であった汚染土対策が終了し、現在1階部分の整備工事に着手しております。今後、2階部分の整備工事、外装、

内装工事へと順次工程を進め、平成26年3月末完成を目指してまいります。

また、同施設の管理運営につきましては、質の高いサービスが提供され、市民の皆様をはじめ多くの方々に賑わう新たな交流の場、憩いの場として活用されるよう、現在、指定管理者と協定締結に向け具体的協議を進めております。

駅前広場整備につきましては、多くの方々の御意見を踏まえ、今年3月に詳細設計が完成いたしました。現在、仮駅前広場工事を実施しており、広場機能の移転後、10月から新たな駅前広場の整備工事に着手し、平成27年度中の完成を目指してまいります。

また、駅周辺の駐車場不足を緩和するための仮駅前駐車場の拡幅工事につきましても、今年9月頃の完成を目指して工事を進めております。

今後とも引き続き工事への御理解と御協力をお願い申し上げます。

原子力防災等の観点から整備を進めております市道西浦1、2号線につきましては、平成24年8月に着手いたしました手ノ浦トンネル（仮称）の掘削工事が4月に完了し、7月に貫通式を執り行う予定であります。引き続き、県道への取付道路である沓5号線など、関連工事を進めてまいります。

敦賀南スマートインターチェンジ（仮称）につきましては、中日本高速道路株式会社が設計した構造等について、地元との協議がまとまり同意を得られたことから、現在、用地境界測量に着手しております。早期開設に向け、引き続き用地交渉等を精力的に進めてまいります。

次に、第2次敦賀市環境基本計画について申し上げます。

平成14年に第1次敦賀市環境基本計画を策定して以来、環境を巡る様々な課題に対応しながら、環境保全に努めてまいりましたが、目標年次である10年が経過したことから、今後の社会、自然環境の変化に柔軟に対応するため、第2次敦賀市環境基本計画を策定いたしました。

同計画では、ラムサール条約に登録された中池見湿地をはじめ、本市の豊かな自然や安心して快適に暮らせる地域環境を守り、環境学習・教育にも力を注ぎ、環境を考え行動する人づくりを行ってまいります。

次に、檜曲地区民間廃棄物最終処分場について申し上げます。

平成18年度から行ってまいりました抜本対策工事につきましては、平成24年度末で全て完了いたしましたが、今後も施設の維持管理等を継続して行う必要があります。抜本対策工事及び今後の維持管理に係る費用負担について同意が得られない排出団体に対しましては、環境省の協力を仰

ぎ、粘り強く協議を重ね、支払いに応じていただけるよう引き続き全力を挙げて取り組んでまいります。

敦賀斎苑の使用料について申し上げます。

斎苑は、築18年が経過し、施設の老朽化に伴う維持管理経費が増加しております。また、この施設の使用料は県内で最も低い設定となっているため、斎苑使用料適正化検討委員会を設置し、使用料の見直しを検討してまいりたいと考えております。

清掃センター運転管理等業務委託について申し上げます。

焼却処理施設運転管理等業務を、昨年8月から委託しておりました事業者が、本年1月28日付けで民事再生手続開始申立てを行い、当該委託業務に支障を来すおそれが生じました。施設業務が休止した場合の市民生活への深刻な影響や即時対応の困難な点などを勘案し、本年4月30日をもって委託契約を解除し、翌5月1日からは、安定した運営が確保できる新たな事業者により、順調に業務を継続しております。なお、今回、委託先の変更に伴い、前契約との差額分を補正予算に計上させていただきました。

教育関係について申し上げます。

小中学校の耐震対策について申し上げます。東日本大震災では、建物被

害が少なかった地域でも天井材、照明器具、窓ガラスなど非構造部材といわれる部分の被害も多く報告されております。

本市では、平成23年度に全小中学校の建物の耐震対策工事は完了しておりますが、引き続き非構造部材の耐震対策を行うため、今年度から3箇年計画で市内全小中学校の耐震補強事業を実施することとし、今年度、小中学校合わせて6校分の必要経費を今回の補正予算に計上させていただきました。

次に、王貞治氏が理事長を務める世界少年野球推進財団と福井県、嶺南市町の主催による第23回世界少年野球大会が、本年8月18日から26日までの9日間にわたり、本市を中心とした嶺南地域において、韓国、ロシア、中国をはじめ、5大陸から15箇国が参加し盛大に開催される予定であります。大会期間中は、国内外から約130名の子どもたちが集い、野球教室が開かれるほか、嶺南各市町で組織したチームと台湾、韓国チームとの国際交流試合や、交流親善を深める各種イベントが予定されております。野球を通じて、世界の青少年に友情と親善の輪が広がることを期待するものであります。

敦賀市立看護大学の設置について申し上げます。

去る3月25日、文部科学省に交野学長予定者とともに赴き、大学設置認可申請書を提出してまいりました。また、4月12日には大学設置・学校法人審議会による設置構想審査があり、大学の基本理念、教育目標や大学運営等について説明をしてまいりました。現在、同審議会において、全体構想や教員の資格などについて審査を受けているところであります。

一方、学生確保につきましては、教育の特色や入試制度等について広く周知するため、県内外で開催される進学説明会に参加するほか、8月6日には、高校生や保護者の方々を対象に旧短期大学の校舎で大学説明会を開催する予定であり、できる限り多くの機会を捉えて、優秀な学生の確保に努めてまいりたいと存じます。

次に、敦賀港の振興について申し上げます。

本年1月から5月までの敦賀港外貿コンテナ取扱個数は、前年同期に比べ約21パーセント増と、過去最高を記録した昨年と比べても堅調に推移しております。今後も敦賀港の更なる活性化のため、関係機関と連携を図りながら戦略的なポートセールス活動等を積極的に展開し、航路誘致や新規荷主の開拓等に全力で取り組んでまいります。

一方、人流による港の活性化と賑わい創出につきましては、クルーズ客

船「ぱしふいっくびいなす」が、本年6月と8月に、計4回入港する予定となっております。昨年度末に設立しました敦賀みなと振興会を活用し、入港の歓迎イベント等を企画するとともに、クルーズに訪れる皆様方に、広く敦賀をPRしてまいりたいと存じます。

博物館通りの賑わい創出について申し上げます。

昨年度末に策定された博物館通り賑わい創出計画の中核的な事業である博物館通り町家再生事業については、本年10月の3店舗開業に向け、建物の改修、整備等が順調に進められているところであります。今後、同計画に従い、街並の再生や商業の振興を図るとともに、地元をはじめ、まちづくり会社等、関係団体と一丸となって、持続的な賑わいの創出に取り組んでまいります。

次に、金ヶ崎周辺整備構想について申し上げます。

市民ワークショップ等での意見を集約した整備構想に基づき、金ヶ崎周辺デザインガイドライン策定委員会において、レストラン、鉄道と港のジオラマ、市民ギャラリー等、赤レンガ倉庫の利活用に関する基本方針が昨年度末に示されました。この方針のもとに、今月中には耐震補強工法を選定し、更に、今年8月頃を目途に利活用を含めた赤レンガ倉庫改修に係る

基本設計について、お示しさせていただきたいと考えております。

次に、観光振興について申し上げます。

昨年度末に策定を終えた敦賀市観光振興計画の推進体制の構築に向け、現在、関係団体等を対象に計画内容の説明と官民協働による取組への協力依頼を進めております。来年度の舞鶴若狭自動車道全線開通や、北陸新幹線金沢開業に合わせた平成27年度のJR6社によるデスティネーションキャンペーン開催等を見据え、本市が通過点とならないよう、観光素材に磨きをかけるとともに創意工夫を重ね、更なる観光誘客に積極的に取り組んでまいり所存であります。

風しん対策について申し上げます。

昨年、首都圏や近畿圏を中心に流行しました風しんですが、今年に入ってから感染拡大が続き、県内での発症も報告されております。特に、風しんに免疫のない妊婦の方が風しんウイルスに感染すると、出生児に先天性風しん症候群という病気を引き起こすおそれがあることから、敦賀市医師会の協力を得て、一部公費助成による予防接種等の検討を進めているところであります。

次に、市立敦賀病院について申し上げます。

病院経営の基本としてまいりました中期経営計画への取組につきましては、救急医療の充実、高度医療機器の整備、地域の医療機関との役割分担や連携強化等、病院機能の質向上とともに、継続的な黒字決算など経営改善に一定の成果が得られているものと考えております。

本年度は、計画期間の最終年度として、数値目標の達成を目指しつつ、医療環境の変化や市民の医療ニーズに的確に対応するため、平成26年度からの新たな中期経営計画の策定に取り組んでまいります。

こうした中、増加する透析医療が必要な患者さんの受入体制を拡充するため、透析装置を追加購入することとし、今回、必要経費を補正予算に計上させていただきました。

さて、今回提出いたしました補正予算案につきましては、緊急経済対策及び国等の補助事業の内示決定分など、早急に対応が必要なものについて補正を行うものであります。

その結果、補正予算の規模は、

一般会計	6億 2,293万 8千円
特別会計	600万円
企業会計	447万 3千円

合 計 6 億 3, 3 4 1 万 1 千円 となり、

補正後の予算総額は、

一般会計 2 6 1 億 1, 6 7 0 万 1 千円

特別会計 1 5 6 億 9, 6 8 7 万 4 千円

企業会計 9 5 億 7, 5 6 1 万 3 千円

合 計 5 1 3 億 8, 9 1 8 万 8 千円 となりました。

なお、これらに伴う歳入は、国、県支出金、繰越金等確実に見込まれるものを計上し、収支の均衡を図ったところであります。

また、予算案以外の案件及びその他の議案につきましては、それぞれ記載の理由に基づき提案した次第であります。

次に、本市に寄せられました寄附金品につきましては、別紙お手元に配布申し上げたとおりであります。その御厚志に対し各位とともに、市民を代表して厚く御礼を申し上げます。

以上、私の市政に対する所信の一端と今回提案いたしました予算案などについて御説明申し上げます。

何卒慎重に御審議をいただき、妥当なる御決議を賜りますようお願い申し上げます。